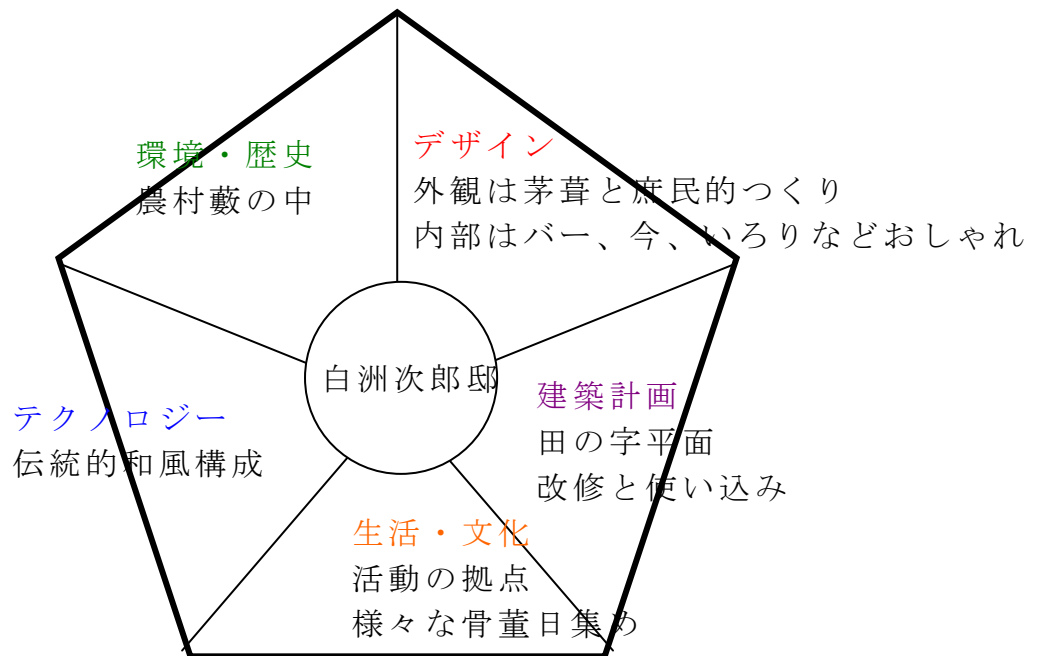


白洲次郎邸
町田市鶴川
鶴川駅から徒歩 15 分

2017 年 1 月 11 日

白洲次郎と正子の住居

1943 年新宿から転居。第 2 次世界大戦が始まりいずれは食料難になると考えて、田畑を購入し農業を教えてもらって作物を作った。その後戦後も生活の拠点として使っていた。かやぶきの農家は伝統的な田の字型の平面で、牛を飼っていた土間を応接として使っている。正子の文章に田の字型の平面はゆとりがあって転用しやいと書き留めてある。正子の机は端にあり、よう壁に面している。



茅葺の母屋と和小屋の間のテラス



おしゃれなバー



茅葺の母屋 田の字プランの使い勝手が良いと正子が書きとめている。



散策路越しに見える山小屋風の現在の当主のお住まい